

# ひまわりからの メッセージ

170号

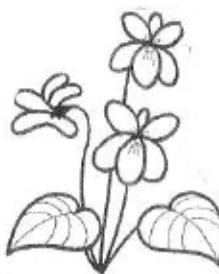
2026.2.9.

NPOひまわりの花園内

西濃園域

発達障がい支援センター

発行人：中野たみ子



## バイオレットの 仄かな香りに寄せて

先日は大雪警報も出て、北海道や東北各地は大変だつたようですが、わが家のあたりはそれ程でもなく、庭に残った雪も昨日には消えてしましました。

今日は二月七日、久しぶりに庭に出てみました。いつもは勝手口から出勤してしまって、玄関に出るのは朝刊を取りに行くだけという生活が続いていたのです。しかも、朝刊を取りに行くのは、朝まだ明けやうぬ時間ということもあって、庭の木草を見るのは久しぶりです。もしかしたら、何株があるはずの「ニオイスミレ」が咲いていないかなあと、かすかな期待をこめて……。スミレは多年草ですから、積垣の下にあります。でも積垣の下は、きれいに草取りされていて、ありません。しかし諦めうれなくて枯れ草をそっと手で

除けてみると……ありました!! 紫色の小さな花が三つ咲いています。「こんな所で咲いてくれたんだね」手に取ってみると、かすかにバイオレットの香りがします。

本当は「ニオイスミレ」という学名は存在しないのです。スミレの種類は多く私には区別がつかないので、「ニオイタチツボスミレ」という和名のスミレとは花の形が少し違うし、ノジスミレとは葉の形が違っています。でも、我が家スミレは、かすかな芳香があります。かく「ニオイスミレ」と呼ぶことにしようと、私はいつの頃からか決めていました。

毎年のことですが、積垣の下の枯れ草の中から、この小さなスミレを見つけると、いつもほほえみます。春です。こんな小さな花も冬の寒さに負けずに小さな命をせいいっぱい輝かせているのです。私だって……。「あなたは何ができるの?」せいっちは生きてる?「小さなスミレは、そんなことは投げかけてくれていいのですが、ううん、私なりに出来ることをやっていくだけだよ。それで良いでしょ?」頑張りすぎると心がホッキッと折れてしまうといけないからね」と、私の心は言い訳をしています。

今年度も、あと一ヶ月半で終りです。子どもたちの引き継ぎ会が終ると、県に提出する報告書が待っています。使うのかは、人それぞれです。悔いを残さないように……。

誰の上にも時は平等に流れていますが、その時間をどの様

# 北風と太陽



「北風と太陽」の話を知らない人は、おそらくいないだろうと思います。では、なぜ、私はこの話を書こうと思つたのか、それは、時々この話を思い出させる出来事に遭遇するからです。

「北風と太陽」の話は、イソップの寓話の中に出でています。寒そうに外套を着こんだ旅人に對して、北風と太陽は旅人の外套をどちらが先に脱がせられるのか競争をする話でした。北風が風を送ると、旅人はますます外套をしっかりとつかんで寒い北風を避けようとします。でも暖かな太陽の光が降り注ぐと、自分から外套を脱いでしまいます。つまり、太陽の勝ちだったわけですね。

この話は寓話ですから、太陽は愛情で、北風は厳格さとどうえられたり、早急に解決しようとせずに、ゆっくりと時間をかけて解決に導いた方が良いのだということになつたり、その解釈には色々あります。

では、教育の場ではどうなのでしょうか。

例えば、旅人の外套というものは、そのままの内面の困りや苦

悩や悲しみなどと考えてみると、一筋縄ではいきません。

いかわクリニックの井川先生は、以前、発達障がいの子の特性と反応と症状につけて話されたことがあります。特性は、いつでも、どこでも、誰の前でも同様に見られるものです。多動症の子は、学校でもスーパーでも、どこでも多動だし、A先生の前でもB先生の前でも誰の前でもよく動くでしょう。でも、もしもA先生がその特性を治そうとして厳しく叱責を続けると、A先生の前だけでは、姿勢よく坐つていられるようになるかもしれません。するとA先生は、「ほう、私の前ではやれるでしょう」と誇らし気におっしゃるかもしれません。でも、それは、実は特性→反応という形になつて、悪い方向に進んだことになるのです。「いつでも、どこでも、誰の前でも……」から、「ある人以外の人の前では、……」ということですよね。そして、その方法をもつと押し進めしていくと、今度は、「いつでも、どこでも、誰に対しても反抗的になつていきます。反応→症状へと悪化して、「反抗挑戦性障害」を引き起こしたことになります。

では、その責任は誰が負うのでしょうか。A先生に愛情がない、あの子がもともと悪いんだ」とか、家庭が悪いから、とか、自分を防衛されるは本です。

一方、愛情をもって、何でも子どもの言ひなりにしていけば子

どもは上手く育つのでしょうか。

私は「受容」という言葉を保護者の方たちに使わないようになります。何故かと言うと、「受容」ということは、何でも子どもの言うこと、欲求を通してあけることだ」と思われる保護者の方が多いからです。もしも子どもの要求を全て受け容れていったう、その子は王様、王子(王女)様に育ちます。保育園に入つても、自分中心になるでしょう。ルールのある遊びは負けそうになると自分ルールに変更しようと、それが受け容れられないと、ひっくり返って泣き叫んでいるかもしれません。つまり、愛情だと思つている過度の受容もまた子どもを悪い方向に導いていく危険性があると言えます。

つまり、教育や保育には、両極端はないのです。もしもゼロか百しか考えられない人がいたら、おそらく子どもを育てる職業には向ひしないと言えるのではないどうか。北風と太陽出てくる旅人の外套は、子どもではありませんものね。

私は心理学専攻だったのですが、この年齢になつても、まだだなあと思うことがあります。子どもたちの内面に向き合うことの難しさを感じています。

引きつき会に参加していると「人見知りがひどい」とか「不安

感が大きい」といったお子さんにお会いと、それはどうしてなのかと考えてしまいます。お母さんの不安感が少なからず影響しているのかと思ふケースもあれば、小さい時から触覚など感覚の過敏さがあつて、困つている場合もあるでしょう。お母さんが自分が寝ている間に居なくなってしまったことがあって、(本当は買物に行つただけだったのに)又、居なくなつたうどうしようと不安になる子もあるでしょうし、ご両親の間に何かトラブルがあってそれを敏感に感じ取ってしまうことがあるかもしれません。又、先生や友達の発言を自分に向けられた中傷や叱責ととらえたり、実際に過去のいじめがトラウマになつているのがも知れません。

つまり、子どもたちが示す行動は、一見同じものに見えるかもしませんが、家庭状況や友だち関係、本人自身の感受性や感覚の問題など多方面からの分析が必要となるはずです。ちゃんにはちゃん、口ちゃんには口ちゃんの理解がどうしても必要だと思うのです。

でも私たちは「ADHDだから……」とか「ASDだから……」とか「単に甘えてるだけだから……」「わがままだから……」と勝手に決めつけて、強引に大人に従わせようとしたり、「障がいだから仕方ないでは、大目に見て……」とか「特性があるんだから認めてあげないと……」と、まるで理解しているかのように放任

たりすることが無きにしも非ずです。

子ども達の成長発達を促していくためには、その子が少し努力すれば出来るとは何なのか、ます探ることだと思います。そして、子ども自身が理解できる見通しがたてて、一緒に約束し、乗り越えて行けるように見守っていくことではないでしょうか。大人が指示に従わせようと厳格にしたら、従うことはできても知れませんが、子ども達の心は豊かにはならないでしょうし、何でも許してもうつていては社会性は育ちません。

私達は大人の指示におとなしく従う子どもを育てているのではないと思います。善悪の判断も大切ですが、時には分かっていても出来ないことがあるのが子どもです。辛いことや悲しいことが不安の原因かも知れませんが、そういう心の葛藤を自分で乗り越えていってほしいと願っているわけです。そのように考えると、その根底には、子どもを思いやる心が私達には必要だということになるでしょう。

例えば「家に帰りたいよう」と泣りでいる子がいたとします。でも、その朝、お母さんや先生と「一日学校で過ごす」と約束していました。では、「教室へ行くよ!」と無理矢理引っぱて教室に連れて行けば良いでしょうか。その時、その子にかける言葉は「教室へ行くよ!」の一言で良いでしょうか。

それよりまず、その子の気持ちに共感して「家に帰りたいよね」と言いましょう。「でも、今日、どんな約束をしたんだった?」一日過ごすと約束したんだよね、じゃあ、約束は守らないといけないよね」と、そこは譲らなないことです。

もちろん、それ以前のその子との関係性が出来ておらず怖くて従うという関係性しか築けていかなかったり、一貫性のない対応をしてきていたり、最初に共感の言葉は出で来ないかもしれません。

子どもの気持ちを理解した上で、聞けることと聞こえられないことがありますことを示していくこと、感情的にならずにその時にどんな言葉をかけるのか、実は私達自身の生き方がそこで試されているのだと思います。言葉の大切さを知っている私達だからこそ、言葉のかけ方を工夫し、学んでいく必要があるのでしょうか。相手を支配するのではなく思いやる心があれば、きっと通じ合えると信じて……。

## 3月の予定

- 2日～19日 引継ぎ会  
4日 ピアサポート 検討会  
6日 輪之内 保健師研修会  
無井10ヶ月健診会  
セントラル親の会  
無井言語研修会  
9日 5歳医療検討会  
16日 ひきもりプロgetto  
18日 成人相談の予定  
揖斐川、大野 養老 安八

